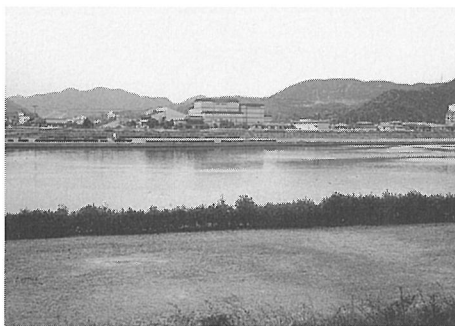


# 文化財をたずねて No. 11

## 尾崎地区の文化財めぐり

発行 赤穂市教育委員会  
編集 生涯学習課文化財係  
(赤穂市加里屋81 TEL 43-6858)

尾崎地区は、猪壺谷遺跡や赤穂大橋下遺跡の縄文遺跡が確認されているように、市内でも早くから開け、古墳時代後期になると大塚古墳が造られている。中世では、史実記述が少なく、赤松氏一族や山岳仏教寺院の存在を少しばかり見ることができる。江戸時代初期において、池田家家臣の垂水半左衛門や岡田弥兵衛による塩田開発、尾崎氏(のちの柴原氏)・田淵氏が尾崎を振り出しに財をなして塩田を拡大、ついで柳田氏・松本氏・小川氏らの塩田地主も台頭してくる。江戸時代から昭和時代初期まで塩田と農地がほぼ半々で、製塩業や農業に携わる者がほとんどであった。尾崎村の村名は、昭和12年(1937)の合併による大赤穂町誕生まで長く存在したが、遂に消失した。



赤穂大橋下遺跡

### ①赤穂大橋下遺跡

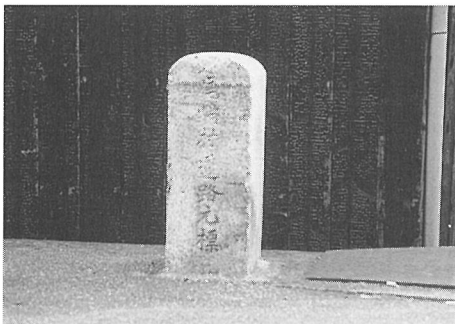
昭和35年(1960)赤穂大橋の橋脚補強工事時に土器が採集されて遺跡が知られることとなった。採取遺物は、縄文土器・叩石・弥生土器・須恵器などである。現在は川底であるが、かつては陸地であり人々が生活していたことがわかる。

### ②旧赤穂大橋跡

千種川に旧赤穂大橋の橋脚が昭和35年(1960)頃まで建っていたが、今はなく東たもとにその名残りを止めている。明治25年(1892)赤穂地方を襲った未曾有の大洪水で橋が流失したため、旧赤穂大橋が明治28年に完成した。ほぼ中央より尾崎側を巖津橋、赤穂側を赤穂橋と呼んでいた。

### ③道路元標

昭和12年(1937)4月1日に、赤穂町・塩屋村・尾崎村・新浜村(現在の御崎)が合併し、大赤穂町が誕生した。同年5月赤穂大橋が完成するまで、旧赤穂大橋東詰に建つ石標は、旧尾崎村への玄関口を示し、高さ65cm、25cm角の花崗岩で、正面に「尾崎村道路元標」背面に「兵庫縣」と刻んでいる。



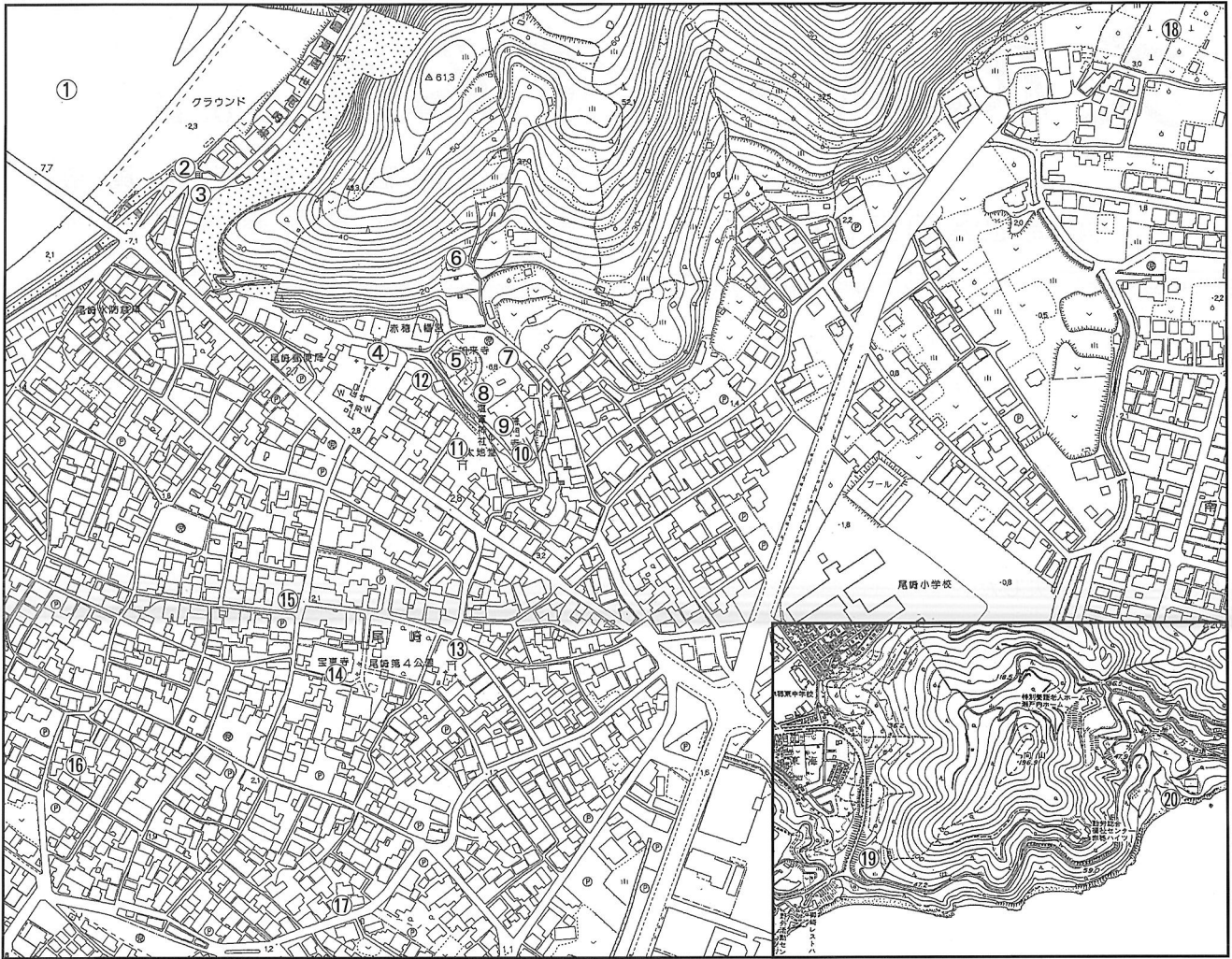
道路元標

### ④八幡宮

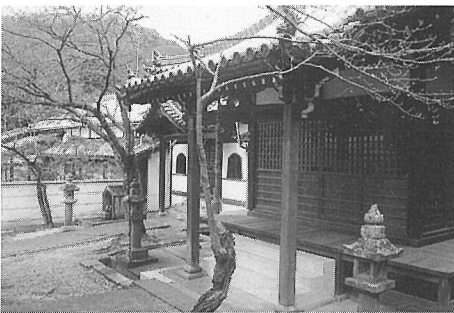
祭神は応神天皇、神功皇后、仲哀天皇であり、応永13年(1406)鳥撫村(現在の鷗和)銭戸島から移されたと言われている。江戸時代は、天台宗の神仏習合寺で神宮寺と称したが、明治政府の神仏分離令で八幡神社と改称し、戦後は現在の八幡宮となった。境内には、本殿・拝殿のほか、本殿東側(右手)に荒神・若宮・稲荷を合祀した社、拝殿西側(左手)には三光神社、稲荷神社が祀られている。末社として宮山に塩竈神社、御旅所に宝崎神社がある。また、同宮には大石内蔵助ゆかりの布袋額・櫛の木・石灯籠などをはじめ、赤穂義士関係の書状などが数多く残されている。赤穂八幡宮獅子舞は、平成8年(1996)市の無形民俗文化財に指定されている。



八幡宮



- |          |         |                 |              |          |
|----------|---------|-----------------|--------------|----------|
| ①赤穂大橋下遺跡 | ⑤金光山如来寺 | ⑨太地堂            | ⑬宝崎神社（ノット）   | ⑰今井学校跡地  |
| ②旧赤穂大橋跡  | ⑥忠魂碑    | ⑩明王山普門寺         | ⑭龍王山宝尊寺      | ⑱三味の迎え地藏 |
| ③道路元標    | ⑦児島長年碑  | ⑪伝大石良雄仮寓地跡（オセド） | ⑮尾崎尋常高等小学校跡地 | ⑲大塚古墳    |
| ④八幡宮     | ⑧塩竈神社   | ⑫仙桃園            | ⑯三本松         | ⑳猪壺谷遺跡   |



金光山如来寺

こんこうざんにょらいじ  
⑤金光山如来寺

昔源清という僧が、八幡宮に山城国（現在の京都府）の男山八幡神宮（現在の石清水八幡宮）から行基作と伝えられる八幡大菩薩（＝阿弥陀如来・観音菩薩・勢至菩薩）をして勧請する。八幡宮の神宮寺であったが、神仏分離して仏像を観音寺に移し、寺号を金光山如来寺に改め、天台宗に属する。本尊は阿弥陀如来である。寺内に薬師堂のほか、俊恵師之碑・岡田弥兵衛墓碑・早苗塚などの石碑が建っている。寺宝として、神宮寺時代に可笑（大石良雄）画をはじめ、赤穂義士ゆかりの書簡などが残されている。



忠魂碑

⑥忠魂碑

当初は日露戦争による戦死者8名を合祀するため、寺山に大正10年（1921）4月に建立していたが、昭和10年（1935）現在地に移転した。なお、現在は第二次大戦の戦死者も合祀している。

⑦児島長年碑

幼名は堅蔵、後に三郎。南朝の児島高德を先祖と仰ぎ、同じく名和長年の忠誠を慕って児島長年と名乗った。赤穂における唯一の勤王志士の碑で、明治21年（1888）建立された。この周辺は宮山と呼ばれ、

さなえ たぶちたんせん  
早苗塚・田淵丹仙句碑などの石碑は、江戸後期における赤穂俳諧の歴史をかがい知ることができる。

### ⑧塩竈神社

かつて東浜塩田にあったが、大正6年(1917)3月現在地に移築し、その後金比羅神社と天満神社を合祀した。一般に「金比羅さんの社」として親しまれている。

### ⑨太地堂

堂宇には弘法大師(空海)、延命地藏、子育て地藏、聖徳太子像を祀る。呼称は、聖徳太子の「太」と地藏の「地」から採り入れたと言われている。

### ⑩明王山普門寺

寺縁起によると慈覚大師の創建と言われている。古来、雄鷹台山にあった。慶長2年(1597)明王山普門寺は赤穂東組(橋本町)、大高山長安寺は赤穂西組(新町)に再建された。昭和32年(1957)加里屋の区画整理事業により現在地に移築され、両寺が相合し、明王山普門寺と改称された。本尊の木造千手観音坐像は昭和15年国宝にされたが、文化財保護法の制定により国の重要文化財になった。平安初期頃の作で、高さ104.5cm、密教的な特色を示す力強い作風で、千手観音像の坐像としては県内でも珍しい。

### ⑪伝大石良雄仮寓地跡(オセド)

仮寓地跡は、大石内蔵助良雄の家僕であった妹尾孫左衛門の兄である元屋八十右衛門の屋敷があった所であり、元禄14年(1701)の刃傷事件の後、遠林寺で城明け渡しの残務整理をする4月15日から6月25日の間、内蔵助とその家族が仮住まいした所として伝えられている。現在では「オセド」と呼ばれ、内蔵助が祀ったとされる稲荷社(大石稲荷と呼ぶ)、赤穂城にあったとされる牛石・馬石などが残されている。この伝大石良雄仮寓地跡は、平成9年(1997)市の史跡に指定された。また、史跡内に昭和6年(1931)建立の「大石良雄假寓地」や昭和26年建立の「碑櫻惜」の石碑もある。

### ⑫仙桃園

素封家小川伝治郎が明治27年(1894)画師の北条文信に庭園設計を依頼し、旧山陽道有年宿駅の柳原家の本陣御座所を書院として移築するなど、別邸として整えられて紅蓼園と称した。庭園中腹には、大正10年(1921)2階建ての茶室も増築したが、昭和22年(1947)桃井氏に譲渡され、仙桃園と改称された。この庭園は、明治時代中期に造られた赤穂地方の数少ない庭園として貴重なものである。

### ⑬宝崎神社(ノット)

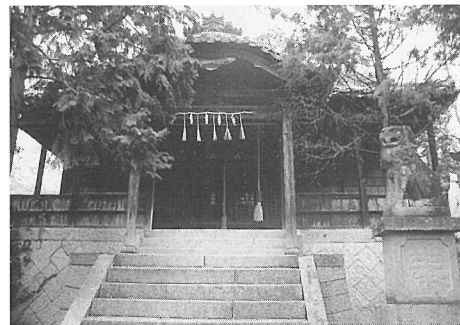
八幡宮の御旅所として、北向きの社殿になっている。境内には水神社と稲荷神社が合祀されている。

### ⑭龍王山宝専寺

かつて、真言密教の霊場として7ヶ寺が上の山(寺山)にあったが、戦国時代には衰退して、龍王山専福寺と龍馬山観音寺の2ヶ寺だけが残っていた。天文5年(1536)専福寺住職正善が浄土真宗に改宗し、寺号を宝専寺に、名も正空と改め、現在地に堂宇を移した。寛文年間(1661~1672)には、本願寺より一寺二住職の免許を得て、東院と西院が1年交



児島長年碑



塩竈神社



太地堂



普門寺



伝大石良雄仮寓地跡(オセド)







宝崎神社 (ノット)



龍王山宝専寺



三本松



三昧の迎え地蔵



大塚古墳

替制で寺務を処理するようになった。一寺二住職の寺は、全国でも珍しい。尾崎の恵比寿大黒舞は、昭和47年(1972)兵庫県無形民俗文化財に指定されている。使用される面は、その昔永代経扱いとして宝専寺に寄進され、毎年元旦に恵比寿大黒舞保存会に貸し出され、奉納舞が行われている。

#### ⑮尾崎尋常高等小学校跡地

明治40年(1907)尋常小学校が高等科を併合して尋常高等小学校に移行し、修学年限が4年から6年に延長された。小学校名は、昭和16年(1941)に国民学校と改称されるまで続き、学校地としては明治32年(1899)から昭和10年(1935)まで存在した。

#### ⑯三本松

赤松筑前守貞範の曾孫である赤松(尾崎)伊賀守政顕は、嘉吉の乱(1441年)などの戦乱から逃れるため、百山の尾先(崎)に隠棲し、名字を赤松から尾崎に改め、尾崎の村名もここからなったと言われている。三本松のいわれは、尾崎政資が文安4年(1447)墓を建てた時、三本の松を植えたことが起こりと言う。その子孫の尾崎貞政は、宇喜多秀家に攻められ一時四国へ逃れるが、慶長期に再度尾崎に戻り、松本平兵衛と改名したと言う。その子孫の医師である松本玄度が石碑「俱會塔」を寛政7年(1795)建立した。この地の稲荷社、五輪塔、その他の墓石などは、松本玄度ゆかりの墓ではないかと言われている。

#### ⑰今井学校跡地

明治期の尾崎は、幼い頃から製塩労働に携わる者がほとんどで、多くの子供は不就学のまま終わることを憂いだ今井三造が、明治34年(1901)1月私費を投じて私立今井学校を開校した。しかし、尾崎尋常小学校に二部教授の夜間授業が行われ、明治35年10月閉校となった。

#### ⑱三昧の迎え地蔵

尾崎の共同墓地内に、西向きに建っている。この地蔵は木ノ下の元三昧にあったが、三昧の移転により現在地に移された。地蔵の台座には建立者や祈願者名のほか、元文2年(1737)7月24日の建立年月日を刻んでいる。

#### ⑲大塚古墳

直径約20mの円墳、両袖の横穴式石室で、須恵器蓋杯・甕・金環などの出土遺物があり、6世紀後半頃に築造されたものである。この大塚古墳は、平成8年(1996)市の史跡に指定された。なお、明治41年(1908)地元民によって発掘調査された記録『字大塚古墳調査書類』は、当時の発掘調査状況を知るうえで兵庫県内でも貴重なものである。

#### ⑳猪壺谷遺跡

昭和30年(1955)頃に縄文土器が採集され、縄文時代後期の遺跡として知られるようになった。数回の発掘調査では、縄文土器片のほか、石鏃・石皿・石錘など石器類も出土したが、遺構は確認されなかった。

\*調査協力 八幡宮、如来寺、普門寺、宝専寺、上杉太郎、梅山知子